

心臓血管外科で手術を受ける患者さんまたはご家族の方へ

臨床研究に関する情報および臨床研究に対するご協力をお願い

当院では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、診療録（カルテ）情報を用いて行います。この研究に関するお問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご照会ください。

[研究課題名] 破裂性腹部大動脈瘤に対する開腹手術とステントグラフト内挿術の治療選択に関する全国多施設観察研究

[研究機関] 日本医科大学千葉北総病院 心臓血管外科

研究参加施設：全国 70 施設（2018 年 1 月現在）

[研究責任者] 心臓血管外科 病院教授 別所竜蔵

共同研究者（研究代表）

- ・旭川医科大学 東 信良
- ・名古屋大学 古森 公浩、坂野 比呂志
- ・関西医科大学 善甫 宜哉
- ・弘前大学 福田 幾夫
- ・信州大学 福井 大祐
- ・東京慈恵会医科大学 戸谷 直樹
- ・湘南鎌倉総合病院 荻野 秀光
- ・森ノ宮病院 加藤 雅明

[研究の目的]

本研究では、①破裂性腹部大動脈瘤の診断に対して条件を揃えて比較した場合、開腹手術とステントグラフト内挿術のどちらが高い救命率を期待できるのか？②どのような状況であれば、開腹手術が望ましいのか？あるいはステントグラフト内挿術が好成績を期待できるのか？状況別の望ましい治療選択基準を明らかにするとともに、③幅広くデータを集めることで、術式別予測救命率を手術施行前に推定するシミュレータを導くことを目指します。

[研究の方法]

●対象となる患者さん

2018 年 1 月から 2020 年 12 月までの間に当院で手術を実施した破裂性腹部大動脈瘤の患者さん（手術を完遂できなかった患者さんも含む）。

●利用するカルテ情報

- ①患者情報：年齢、性別、併存症（高血圧、糖尿病、呼吸障害、在宅酸素、冠動脈疾患、末梢動脈疾患）、既往（脳血管障害、腹部手術既往、冠動脈治療歴、内服治療内容）
- ②画像診断情報；動脈瘤の形状（瘤最大径、瘤ネック形状）、破裂情報（破裂の根拠と